

2-7.2_2

2) 見学旅行

1 物質生命化学科

卒業研究に着手する前の工学系三年生が、実際の化学系工場を見学することにより、化学と企業、工業製品と環境リサイクルについて実際に目で見て学び、見識を広げることを目的として、学部3年生による工場見学を平成29年10月12日(木)～13日(金)に実施した。引率は木田徹也教授(次年度就職担当)、高藤誠准教授、北村裕介助教および坂田眞砂代准教授(本年度3年担任)の計4名で担当した。

当学科の工場見学では北九州地区と南九州地区を交互に訪問している。今年度は北九州地区を訪問した。訪問企業様によっては受入人数に制限があったため、参加者の希望に応じて2つのコースに分かれて見学を実施した。1日目の見学後には全員がそろってホテルクラウンパレス北九州に宿泊し、相互の情報交換や意見交換などを行うことによって学生間の交流も行われた。

訪問先では、各企業のご担当者様から会社概要に関する説明と施設見学を実施していただき、学生からの質疑にもご対応いただいた。見学は両コースともに熱心に行われ、企業各社からの評価も高かった。工場見学にご協力いただいた各企業の関係者の方々にお礼を申し上げるとともに、今回の経験が学生にとって今後の学生生活や就職活動に生かされることを期待する。

日時:平成29年10月12日(木)～10月13日(金) 1泊2日

対象学年および参加学生数:学部3年次生 80名(参加予定81名のうち、1名欠席)

引率教職員数: 4名

見学先:

(Aコース)

◎ 株式会社 旭製作所

〒864-0025 熊本県荒尾市高浜 1978

☎ 0968-68-2121(代)

◎ 北九州市エコタウンセンター

〒808-0002 福岡県北九州市若松区向洋町 10-20

☎ 093-752-2881(代)

◎ 日揮触媒化成株式会社 北九州事業所

〒808-0027 福岡県北九州市若松区北湊町 13-2

☎ 093-751-1531(代)

◎ アサヒビール株式会社 博多工場

〒812-0895 福岡県福岡市博多区竹下 3-1-1

☎ 092-431-2701(代)

(Bコース)

◎ 株式会社 同仁化学研究所

〒861-2202 熊本県上益城郡益城町田原 2025-5

☎ 096-286-1515(代)

◎ 北九州市エコタウンセンター

〒808-0002 福岡県北九州市若松区向洋町 10-20

☎ 093-752-2881(代)

◎ 新日鐵住金株式会社 八幡製鐵所

〒804-8501 福岡県北九州市戸畑区飛幡町 1 番 1 号

☎ 093-872-6105(代)

◎アサヒビール株式会社 博多工場

〒812-0895 福岡県福岡市博多区竹下 3-1-1

☎ 092-431-2701(代)

2 マテリアル工学科

マテリアル工学科では毎年、学部 3 年生を対象として、学生個人がこれまでに修得した専門教育をさらに意義深いものにするために、材料に関連する企業工場見学を実施している。本年度は山口～九州北部圏内で生産活動を行うメーカー4 社に事前に見学を依頼し、2 日の日程で訪問した。それぞれの見学先では、現場の職員や卒業生の方々より懇切丁寧な説明を受け、また参加した学生からは積極的な質問があり、大変有意義な見学旅行が実施できた。

日程： 9 月 25 日(月)～26 日(火)

対象学年及び参加学生数： 学部 3 年生 51 名

引率教職員： 3 名(松田元秀、横井裕之、渡辺裕太)

日程及び見学先：

9 月 25 日 日本ゼオン株式会社 徳山工場 (山口県周南市)

日新製鋼株式会社 周南製鋼所 (山口県周南市)

9 月 26 日 新日鐵住金株式会社 八幡製鐵所 (福岡県北九州市)

TOTO ファインセラミックス株式会社 本社・中津工場 (大分県中津市)

3 機械システム工学科

該当なし

4 社会環境工学科

平成 29 年 9 月 26 日、二年次学生を対象とした現場見学を実施した。現場見学に訪れることで、現場の雰囲気を感じ、座学で学習した知識の定着を図ることを目的とした。平成 28 年春の 1 年生研修はエコくまもと、阿蘇方面を訪問予定であったが、熊本地震のため延期し益城・阿蘇周辺の被災地見学に変更した。2 年生研修では、平成 28 年に訪問予定であった「エコくまもと」に加え、大牟田・荒尾周辺の三池炭鉱関連の産業遺産と、その保存・活用を通じたまちづくりの現場を見学した。行程は下表のとおりである。

エコくまもとでは、公共関与管理型最終処分場の役割、産業廃棄物、災害廃棄物の受け入れ状況を学んだ。石炭産業科学館では三池炭鉱と大牟田及び炭鉱技術の歴史を、三池港周辺では港湾事業の歴史と世界文化遺産の構成資産としての価値を、万田坑では、明治日本の産業革命遺産としての価値、炭鉱関連の産業遺産の保存・活用を通じたまちづくりを学んだ。大牟田・荒尾の見学では、NPO 法人 大牟田・荒尾 炭鉱のまちファンクラブ理事の永吉 守氏のガイドをいただき、より深い理解ができた。本研修は、学生にとって現場の問題・状況を深く学べる貴重な機会となり、今後の学習意欲の向上につながると期待される。

日 時	行 程			
9/26 (火)	集合 熊本大学	====エコアくまもと====	昼食 (オームタガーデンホテル)	====
	8:30	8:50 発	10:00—11:00	11:40—12:30
	====石炭産業科学館====	====三池港周辺====	====万田坑====	====熊本大学
	12:50—13:50	14:10—14:40	15:00—16:00	17:30 着

5 建築学科

1 年生の合宿研修の一貫として、熊本県小国町・杵築市を中心に、優れた建築を講師の解説とともに見学した。

日時:平成 29 年 9 月 25 日(月)～9 月 26 日(火)

見学先:小国ドーム、ゆうステーション、木魂館、他(杵築のまちなみ)

参加学生数:59 名

参加教員数:12 名

6 情報電気電子工学科

平成 29 年 11 月 6 日に、3 年生を対象として企業見学を実施した。県内企業の見学を目的に、平田機工(産業用ロボット等)、東京エレクトロン(半導体プロセス装置等)、メルコディスプレイ(液晶ディスプレイ等)に、当学科 3 年生 16 名を 3 年担任中村教授および山川助教が引率し、補助として技術職員の榎園氏と志村氏が帯同して訪問した。

平田機工では大型の機会工作装置や製造ライン、ロボット等について制御工学の話を織り交ぜご説明いただき、また外国有名企業に出荷直前の製品や、納入先の外国企業から来日し操作研修を実施している現場などを案内いただいた。東京エレクトロンでは同社全社の業務や国際展開の概説に加え、半導体加工装置・加工ラインの概要やそのオペレーション、オペレータに向けた教育制度について紹介があった。メルコディスプレイにおいては、液晶業界のトレンドと同社の役割、特殊なディスプレイ技術とその用途を、製品のサンプルを学生一人一人が手に取れる形で詳細にご説明いただいた。

本研修は、日ごろ学生が座学および演習・実験科目で学ぶ電子工学技術が、実際の製品や社会システムの一つとしてどのように形を成し、それがどのように維持・運営・管理されているかを、実物を見ながら実際に働く同分野出身の技術者の声を聴くことで学ぶ貴重な機会となり、今後の学習意欲の向上と進路設計、キャリアパス構築の大きな助けになったことが期待される。

7 数理工学科

該当なし